

取扱説明書

防音型ディーゼル
エンジン発電機

DGM250UMI-P



注意

安全のため、ご使用前
に必ずこの取扱説明書
をお読みください。
また、いつでもご覧い
ただけるよう、大切に
保管してください。

目次	頁
1. 安全上の注意	1
2. 仕様	4
2-1. 諸元	4
2-2. 周囲条件	5
3. 用途	5
4. 各部の名称	5
4-1. 外観および各部の名称	5
4-2. 操作パネルの各部の名称	6
5. 装備	7
5-1. モニター表示灯	7
5-2. 計器類	9
5-3. オイルガード	14
6. 運搬・据え付け	15
6-1. 運搬の方法	15
6-2. 据え付けの方法	16
7. 負荷の接続	17
7-1. 負荷ケーブルの選定	17
7-2. 負荷ケーブルの接続方法	18
7-3. 漏電遮断装置と接地の方法	21
8. 始業前点検	23
8-1. エンジンオイルの点検	23
8-2. 冷却水の点検	24
8-3. ファンベルトの点検	25
8-4. 燃料の点検	26
8-5. オイルガードの点検	26
8-6. 燃料・オイル・冷却水 もれの点検	26
8-7. バッテリーの点検	27
9. 運転方法	28
9-1. 始動・運転準備	28
9-2. 200/400V切替機能 (オプション)	30
9-3. 運転中の取り扱い	31
9-4. 停止	31
9-5. 保護機能	32
10. 点検・整備	33
11. 長期保管	40
12. 故障時の対応	41
13. ゼネレータ電気回路図	44
14. エンジン電気回路図	46

本機の運用について

本機は「移動用発電設備」として電気事業法の適用を受けます。

このたび、電気事業法に基づく「電気設備の技術基準の解釈」の一部が改正され、使用状況に合わせて下記のような監視が必要になりました。

1. 監視方式

本機(移動用発電設備)を工事現場等に臨時の仮設電源として施設する場合、本機の操作パネル部に貼り付けている(社)日本内燃力発電設備協会(以下、内発協)の適合マークに応じ、次の2通りの方式での監視が必要になります。

<常時監視方式>

本機の運転に必要な知識および技能を有する者が、工事現場等の同一構内で運転状態を監視する方式。

<随時巡回方式>

本機の運転に必要な知識および技能を有する者が、本機の管理上必要な頻度で随時巡回して運転状態を監視する方式。

(1)内発協の適合マークによる監視方式の違い

①「新適合マーク」が貼り付けられている場合

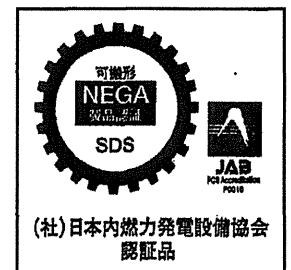
<常時監視方式>もしくは<随時巡回方式>のいずれでも運用ができます。

ただし、「外部燃料タンク」を接続して外部から燃料を連続供給できるように施設した場合は、<常時監視方式>で運用する必要があります。

(<随時巡回方式>での運用はできません)

②「新適合マーク」が貼り付けられていない場合

<常時監視方式>で運用する必要があります。



新適合マーク

(2)本機を工事現場等に施設する条件

本機は<常時監視方式><随時巡回方式>に関わらず下記のように施設してください。

①一般電気事業者が運用する電力系統(商用電源)に接続しないでください。

②工事現場等の構内境界線全般に、さく・堀などを施設し、一般公衆が立ち入らない措置を施してください。

2. 保護機能の追加について

「新適合マーク」が貼り付けられている移動用発電設備には、下記の保護機能を追加しています。

(1)エンジン過回転防止機能

エンジンの回転速度が著しく上昇した場合、エンジンを自動的に停止させます。

はじめに

このたびは、新ダイワの防音型ディーゼルエンジン発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成したものです。
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機は、電気事業法に基づく移動用電気工作物に該当します。関係法規に従った取り扱い、届け出を行ってください。
※関係法令について不明な点がございましたら、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
- 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。



危険：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。



注意：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。

<注意>：その他の注意事項。

- 『**注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 安全上の注意



危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



危険：感電

- 運転中は出力端子部に触れないでください。
- 運転中は出力端子カバーを閉じ、固定ボルトを締めて運転してください。
- コンセントに、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。
- 接地工事は、必ず指示するすべての箇所に行ってください。いずれか1つでも接地しなかった場合、人体を漏電電流が流れ、漏電遮断装置を装備していないときより危険な状態となります。
- 使用機器の漏電遮断装置を接地した場合でも、本機の漏電遮断用接地端子と外箱接地端子は必ず接地してください。
- 漏電による感電のおそれがありますので、発電機の絶縁抵抗は定期的に測定してください。
- 出力端子への負荷ケーブルの取り付け・取りはずしは、必ずブレーカーを『OFF』にして、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。

- 点検・整備を行うときは必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。



危険: けが

- 運転中は扉類を閉じ、施錠をしてください。冷却ファンやベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。



注意: 排気ガス中毒

- 排気を通行人や建物などに向けないでください。



注意: 目や皮膚の障害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。



注意: 爆発

- バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。



注意: 火災

- 本機は、燃料として軽油を使用しています。燃料の給油を行うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。
また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から 1 m 以上離し、水平な場所で運転してください。
- 交流出力を屋内配線に接続しないでください。
- 保管用カバーなどをかけるときは本機が冷えてから行ってください。



注意: やけど

- 運転中や停止直後は、ラジエーターキャップを開けないでください。熱水蒸気が吹き出します。
- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージやオイルフィラキャップを開けると、高温のオイルが吹き出します。



注意: けが

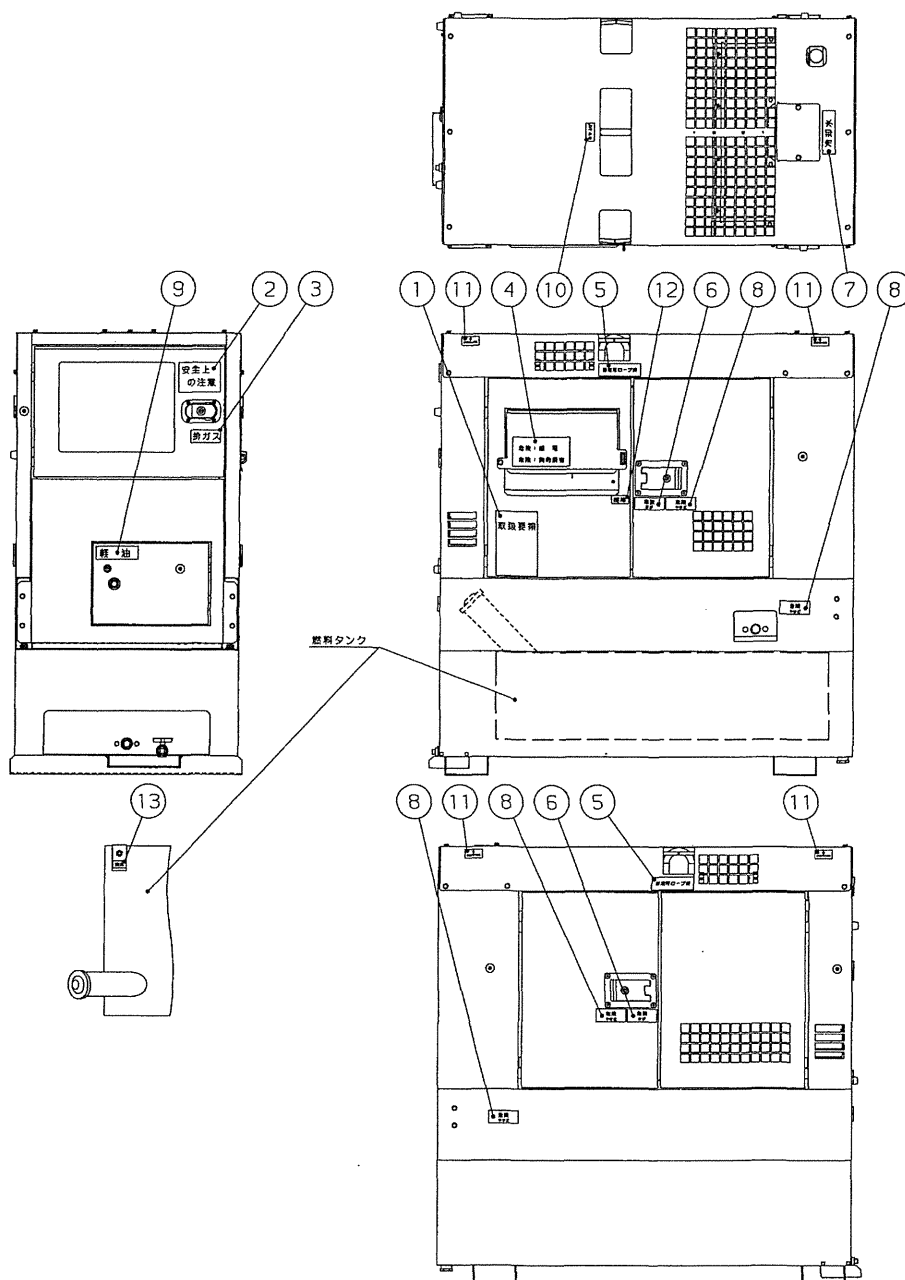
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。
- ロープ掛金具で吊り上げないでください。本機が落下するおそれがあります。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 運転中に本機を移動させないでください。

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

■警告・表示ラベル貼付位置

警告および、表示ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- | | |
|-----------|----------------------------|
| ①取扱要領 | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 3 2 4) |
| ②安全上の注意事項 | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 2 5) |
| ③排気ガス中毒 | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 2 1) |
| ④感電 | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 3 1 6) |
| ⑤けが | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 2 0) |
| ⑥けが | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 2 2) |
| ⑦やけど | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 1 8) |
| ⑧やけど | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 2 4) |
| ⑨火災 | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 1 1 9) |
| ⑩吊り上げ箇所 | (品番 1 9 4 0 1 - 0 0 1 1 2) |
| ⑪段積用枕木位置 | (品番 1 9 4 0 1 - 0 0 1 1 3) |
| ⑫外箱接地端子 | (品番 1 9 4 0 1 - 0 0 1 1 1) |
| ⑬タンク吊り上げ | (品番 1 9 4 0 2 - 0 0 3 3 9) |



2. 仕様

2-1. 諸元

項 目		単位		DGM250UMI-P	
発 電 機	発 電 方 式	—		回転界磁型ブラシレス式三相同期発電方式	
	定 格 容 量	三相4線式	kVA	20	25
			kW	16	20
		単相3線式	kVA	12/[6]※1	15/[7.5]※1
			kW	12/[6]※1	15/[7.5]※1
	定 格 電 圧	三相4線式	V	200/[400]※1	220/[440]※1
		単相3線式	V	200/100	220/110
	定 格 電 流	三相4線式	A	57.7/[28.9]※1	65.5/[32.8]※1
		単相3線式	A	60/[30]※1	68.2/[34.1]※1
	定 格 周 波 数	Hz		50	60
	定 格 回 転 速 度	min ⁻¹		1500	1800
	回 路 方 式	—		三相4線式、単相3線式	
	力 率	%		三相80、単相100	
	絶 縁 階 級	—		F種	
エ ン ジ ン	励 磁 方 式	—		自励式(ブラシレス)	
	極 数	—		4極	
	名 称	—		立形水冷4サイクルディーゼル機関	
	型 式	—		いすゞ AA-4LE1	
	シリンダ数-内径×行程	mm		4-85×96	
	連続定格出力	kW(PS)		19.1{26}	23.5{32}
	回 転 速 度	min ⁻¹		1500	1800
	総 行 程 容 積	L		2.179	
	燃 焼 方 式	—		渦流室式	
	冷 却 方 式	—		ラジエーター水冷式	
	潤 滑 方 式	—		トロコイドポンプによる強制潤滑式	
	始 動 方 式	—		セルスターター方式	
	使 用 燃 料	—		軽油	
	使用潤滑油	—		CC級以上	
外 形 寸 法	燃料タンク容量	L		195	
	潤 滑 油 総 量	L		8.5(フィルター0.4Lを含む)	
	冷 却 水 総 量	L		8.2(サブタンク0.9Lを含む)	
	セルモーター容量	V-kW		12-2.0	
	オルタネーター容量	V-A		12-20	
	バ ッ テ リ ー	—		75D31R	
	長 さ	mm		1440	
	幅	mm		780	
	高 さ	mm		1525	
	乾 燥 質 量	kg		810	
	整 備 質 量	kg		995	

※1:オプション(200/400V切替機能)の400Vセット時

2-2. 周囲条件

本機は下記の周囲条件下で使用してください。これらの条件が満たせない場合は、故障や出力不足・耐久性の低下などのおそれがあります。

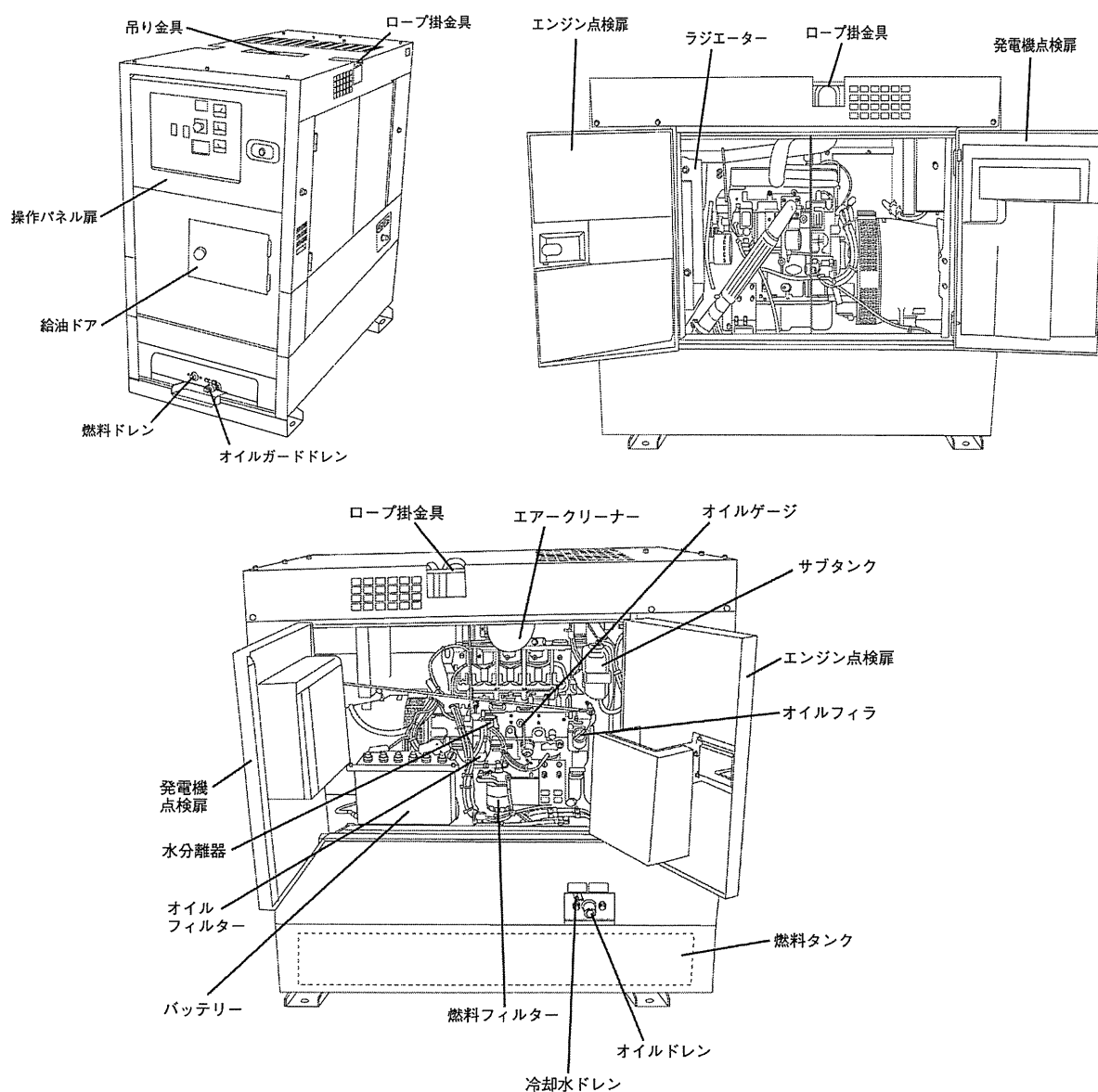
- 周囲温度 : $-15^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$
- 相対湿度 : 80%以下
- 標高 : 300m以下

3. 用途

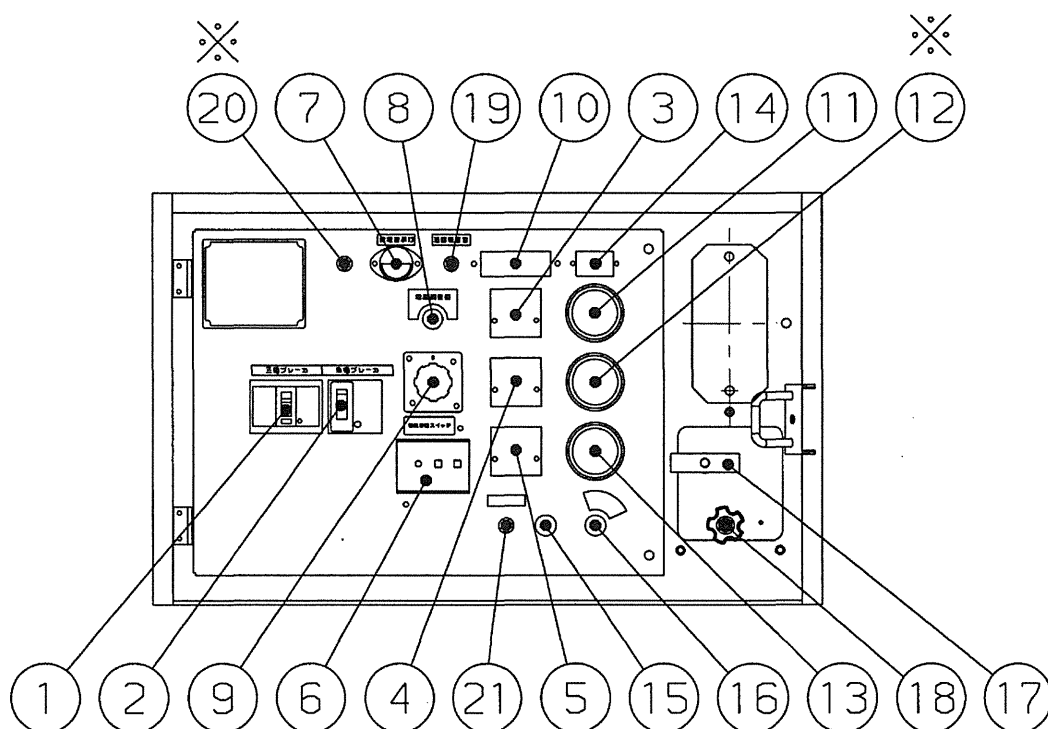
- 水中ポンプなどの土木機械の電源等
- 照明機器の電源等
- 電動工具や家電機器の電源等

4. 各部の名称

4-1. 外観および各部の名称



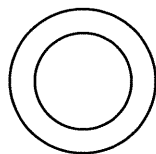
4-2. 操作パネルの各部の名称



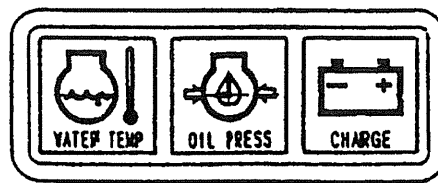
①	三相ブレーカー	⑫	油圧計 (※オプション)
②	单相ブレーカー	⑬	燃料計
③	電圧計	⑭	積算時間計
④	電流計	⑮	予熱表示灯
⑤	周波数計	⑯	スタータースイッチ
⑥	漏電警報器	⑰	スロットルレバー
⑦	パネルライト兼用発電表示灯	⑱	周波数調整スクリュ
⑧	電圧調整器	⑲	過回転表示灯
⑨	電流計切替スイッチ	⑳	400V 警告灯 (※オプション)
⑩	モニター表示灯	㉑	オイルガード液量表示灯
⑪	水温計		

5. 装備

5-1. モニター表示灯



過回転表示灯



本機は、『冷却水温』『エンジン油圧』『バッテリー充電』と『過回転』のモニター表示灯を装備しています。

本機が正常であれば、スタータースイッチを『停止』から『運転』の位置にすると『エンジン油圧』『バッテリー充電』の表示灯が点灯し、エンジンを始動するとすべての表示灯が消灯します。

運転中、『冷却水温』『エンジン油圧』『過回転』いずれかに異常が発生すると、モニター表示灯が点灯してエンジンが自動停止します。

自動停止した場合は、いったんスタータースイッチを『停止』の位置にもどしてから、エンジンを再始動させてください。そして、次に自動停止するときのモニター表示灯の点灯状態を見て、異常箇所の確認をしてください。



危険: けが

- 運転中は、点検扉を開けないでください。冷却ファンやベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

(1) 冷却水温モニター表示灯 (水温上昇)



注意: やけど

- 運転中や停止直後は、ラジエーターキャップを開けないでください。熱水蒸気が吹き出します。
- 運転中や停止直後は、エンジンが高温になっていますので、触れないでください。



冷却水温
WATER TEMP

運転中に冷却水の温度が 110°C 以上に上昇すると、冷却水温モニター表示灯が点灯してエンジンが自動停止します。

そのときは、サブタンクの水量を点検し、不足している場合はサブタンクに冷却水を補給してください。

(『8-2. 冷却水の点検』参照)

規定量ある場合は、ファンベルトの緩みあるいは冷却系統の冷却水漏れも考えられますので、エンジンが冷えてから点検を行ってください。

<注意>

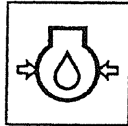
- 冷却水量が少なすぎると水温を検知しませんので、ラジエーターサブタンク内の水量を始業前に必ず点検してください。

(2) エンジン油圧モニター表示灯（油圧低下）



注意: やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージやオイルフィラキャップを開けると、高温のオイルが吹き出します。



エンジン油圧
OIL PRESS

運転中にエンジンオイルの圧力が $0.98 \times 100 \text{ kPa} \{1 \text{ kgf} / \text{cm}^2\}$ 以下に下がると、油圧モニター表示灯が点灯してエンジンが自動停止します。

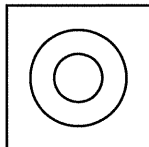
そのときは、エンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

<注意>

- 油圧モニターは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは定期的に交換してください。

『8-1. エンジンオイルの点検』参照

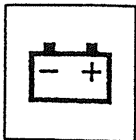
(3) 過回転モニター表示灯



過回転表示灯

本機は、エンジンに異常が発生し、エンジン回転速度が著しく上昇した場合、エンジンを自動的に停止させる機能を装備しています。運転中にエンジン回転速度が 2070 min^{-1} 以上に上昇すると、過回転表示灯が点灯してエンジンが自動停止します。そのときは、エンジン内部の故障が考えられますので、お求めの販売店か弊社営業所にご連絡ください。

(4) バッテリー充電モニター表示灯（チャージランプ）



バッテリー充電
CHARGE

運転中に充電ができなくなると、バッテリー充電モニター表示灯が点灯します。

そのときは、ただちにエンジンを停止し、お求めの販売店か弊社営業所にご連絡ください。

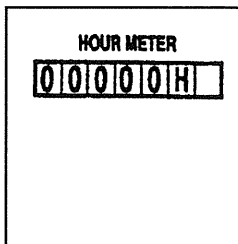
<注意>

- バッテリー充電モニターは、バッテリーの劣化やバッテリー液の不足を検知することはできません。（『8-6. バッテリーの点検』参照）

5-2. 計器類

エンジン用計器

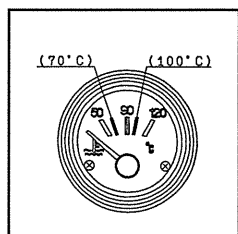
(1) 積算時間計



運転時間を示します。

定期点検の時間管理の目安にしてください。なお、エンジンが運転・停止状態にかかわらずスタータースイッチが『運転』位置の状態であれば、積算時間計は作動しますので注意してください。

(2) 水温計



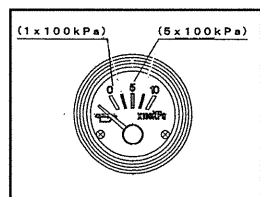
エンジン冷却水の温度を示します。

使用条件により異なりますが、運転中おおむね 80～95℃を示しているのが正常です。

<注意>

- 水温計の値が基準値を越えている場合は、負荷を切りアイドル状態(1000 min^{-1})で冷機運転を行ない水温が下がるのを待ってください。

(3) 油圧計 (オプション)

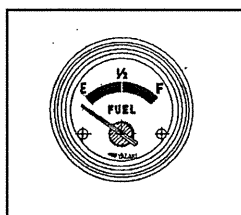


エンジン潤滑系統の油圧を示します。

使用条件により異なりますが、運転中おおむね $2.9 \sim 4.9 \times 100 \text{ kPa}$ { $3 \sim 5 \text{ kgf/cm}^2$ } を示しているのが正常です。ただし、寒冷時でエンジン始動直後はそれ以上になることがあります。

正常圧力になるまで暖機運転をしてください。

(4) 燃料計



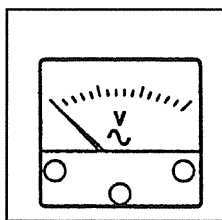
燃料タンク内の燃料の量を示します。

燃料満タン時は『F』を示します。

『E』に近づいた時は、残量が少なくなっています。すみやかに、燃料を補給してください。

発電機用計器

(1) 電圧計

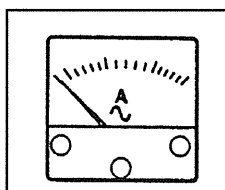


発電機の三相出力電圧(R-T間電圧)を示します。

運転中は50Hzのとき200V、60Hzのとき220Vを指示しているか確認してください。単相3線式出力電圧(U-W間電圧)は、三相出力電圧(R-T間電圧)と同一電圧となりますので、電圧計の指示値を参考にしてください。

※三相400V設定(オプション)で使用する場合、50Hzのとき400V、60Hzのとき440Vを指示しているか確認してください。単相3線式出力電圧(U-W間電圧)は、電圧計指示値の半分の数値になります。

(2) 電流計



発電機の出力電流(相電流)を示します。

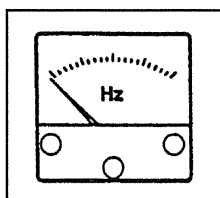
電流計切替スイッチを『R』にすることで、三相R相と単相U相の出力電流を示します。また、『T』にすることで、三相T相と単相W相の出力電流を示します。

『S』は、三相出力端子Sの出力電流を示します。

<注意>

- 単相出力の電流計測をする場合には、電流計切替スイッチを『R』または『T』に切り替えてください。『S』セットでは正確な電流が計測できません。

(3) 周波数計

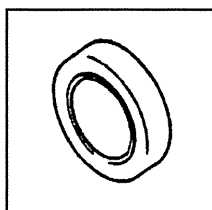


電源の周波数を示します。

運転中は50Hz、または60Hzを指示しているか確認してください。

表示灯

(1) 予熱表示灯

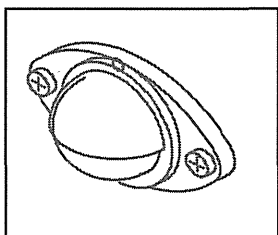


スタータースイッチを『運転・予熱』の位置にすると予熱表示灯が点灯します。予熱が完了すると消灯し、始動可能になったことを示します。

<注意>

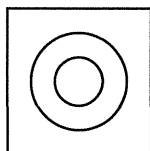
- 予熱の時間は、冷却水温の状態が変わり、約1～5秒で完了します。

(2) パネルライト兼用発電表示灯



エンジン運転時に点灯し、発電していることを示します。

(3) オイルガード液量表示灯

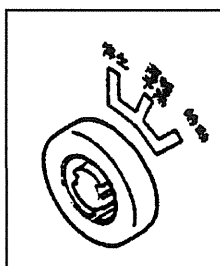


オイルガードに溜まった液量が、オイルガード満容量の $1/4$ (約50L)になると、ランプが点灯します。

(『5-3. オイルガード(P14)』参照)

スイッチ

(1) スタータースイッチ



①停止

エンジンを停止し、すべての電源が切れる位置です。
また、この位置で『キー』の抜き差しができます。

②運転・予熱

運転を行う位置です。また、寒冷時の始動性を向上させるために、グロープラグを予熱する位置も兼ねています。

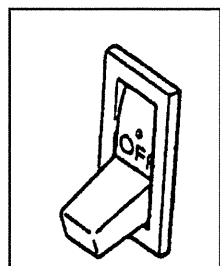
<注意>

- エンジンを停止したままこの位置で放置しないでください。バッテリーがあがります。

③始動

エンジンを始動させる位置です。『キー』から手を離すと自動的に『運転・予熱』位置に戻ります。

(2) ブレーカー



負荷側に送電するためのスイッチで『ON』にすると出力端子に電圧が掛かります。

負荷側の短絡や過負荷使用、また漏電発生時に遮断して負荷側への送電を停止させます。

<注意>

- 負荷の運転・停止を、このブレーカーの操作で行わないでください。

(3) サーマルリレー

三相出力、単相出力又は、三相・単相同時出力使用において、過電流が流れた場合、三相及び単相ブレーカーを遮断させるリレーです。

ブレーカーが作動したときは、レバーが『ON』と『OFF』の中間位置になります。

そのときは、負荷を軽減させ、次の手順で復帰してください。



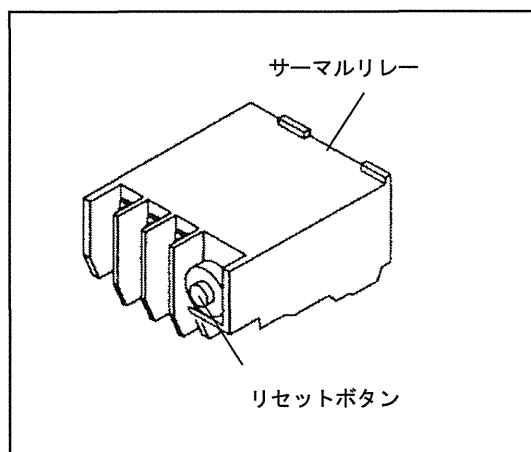
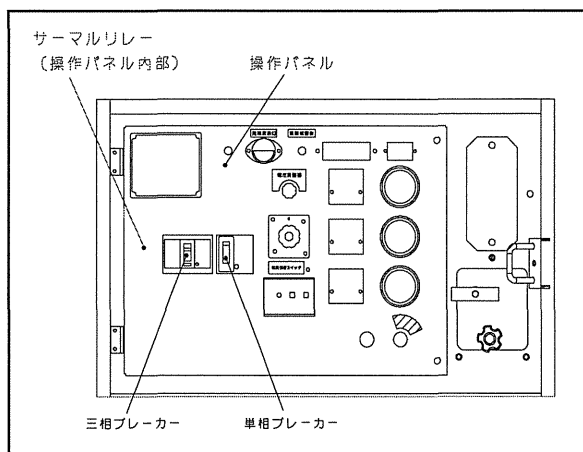
1 エンジンを停止します。



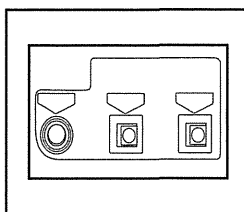
2 操作パネルを開け、サーマルリレーのリセットボタンを押します。
以上の操作で再びブレーカーを『ON』できる状態となります。

<注意>

○ サーマルリレーの設定値は勝手に変えないでください。



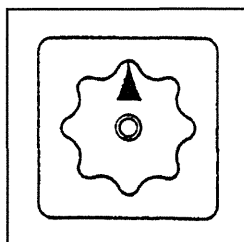
(4) 漏電警報器



負荷側の漏電を検知し、三相及び単相ブレーカーを遮断させます。

(『7-3. 漏電遮断装置と接地の方法』参照)

(5) 電流計切替スイッチ



スイッチを切り替えることにより、つぎの出力端子の電流が電流計に表示されます。

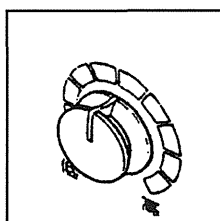
- 『R』：三相R相+単相U相 (合計)
- 『S』：三相S相
- 『T』：三相T相+単相W相 (合計)

<注意>

- 単相出力の電流計測をする場合には、電流計切替スイッチを『R』、『T』に切り替えてください。『S』セットでは正確な電流が計測できません。

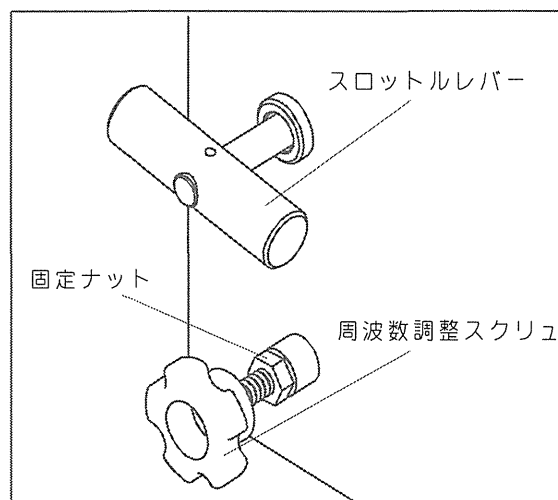
電圧調整器、調速装置

(1) 電圧調整器



発電機の出電圧を調整するダイヤルです。ダイヤルを時計方向に回す（高方向）と電圧が上がり、反対方向に回す（低方向）と下がります。

(2) 調速装置



①スロットルレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。
スロットルレバーを引いて、左に回すと「運転」位置になります。「アイドリング」位置にするには、スロットルレバーを引いて右に回し、スロットルレバーを押し戻します。エンジンの始動、暖機・冷機運転時は『アイドリング』の位置にし、定格運転時（50Hzまたは60Hz）は、『運転』の位置にしてください。

②周波数調整スクリュ

スロットルレバーを『運転』の位置にし、周波数調整スクリュの固定ナットを緩め『高速』側にまわすと周波数が高くなり、『低速』側にまわすと低くなります。

<注意>

- 出荷時は50Hzに調整しています。
60Hz地域では上記の要領で調整しなおしてください。
- 無負荷時に下記周波数に調整すると、定格負荷時にほぼ50Hzまたは60Hzになります。

		無負荷周波数（回転速度）
50Hz	運転	52.5Hz（1575min ⁻¹ ）
60Hz	運転	63.0Hz（1890min ⁻¹ ）

5-3. オイルガード

万が一オイルや燃料などが漏れた場合に、これら液体が機外に漏れ出ないようにするため、本機のベース部分はオイルガード構造(液体が漏れない構造)になっています。また、このオイルガードの部分には、大型燃料タンクが内蔵されています。

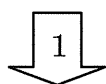
従って、雨天時に機内に侵入した雨水もこのオイルガードに溜まりますので、オイルガード内面や燃料タンク外面が錆びないように、定期的に内部の液体を排出するようにしてください。尚、雨が降ったときは、その都度、排出させてください。

また、排出忘れなどにより、液体が溢れ出るのを防止するため、操作パネルに表示灯を装備しています。満容量の1/4(約50L)まで液体が溜まると、センサーが作動して表示灯が点灯します。

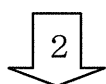
<注意>

- 内部で漏れる可能性がある液体類は、オイル、燃料、冷却水、バッテリー液ですが、侵入した雨水と内部で漏れた液体を判別する機能はありません。排出した液体は、水質汚濁防止法、土壤汚染防止法、大気汚染防止法などに基づく、廃棄処理を行ってください。

溜まった液体の排出は次のように行ってください。



1 エンジン进行停止します。



2 液体を受ける容器をオイルガードドレンの口元に置きます。

<注意>

- 地面の傾斜によって、本機正面側(コック側)が高くなっている場合は、後方底部のドレンをご使用ください。



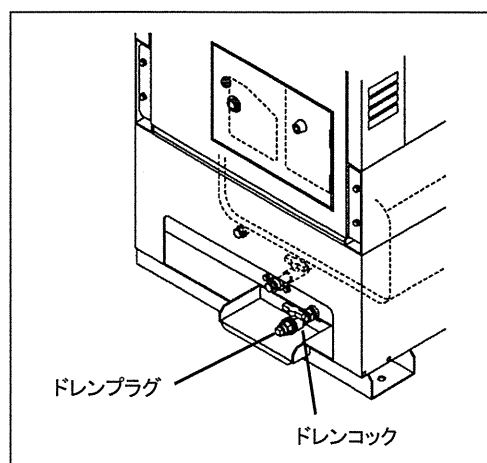
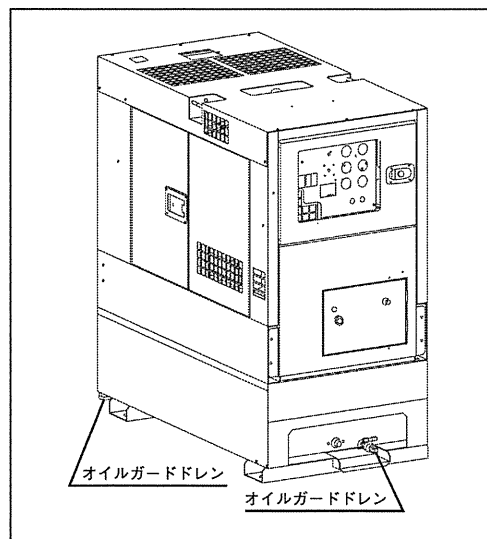
3 ドレンプラグを外し、ドレンコックを『開』にします。



4 液体が抜けたら、ドレンコックを『閉』にし、ドレンプラグを締付けます。

<注意>

- 工場出荷時は、ドレンコックにドレンプラグを取付けていますが、ドレンコックのみでも止水できます。



6. 運搬・据え付け

6-1. 運搬の方法

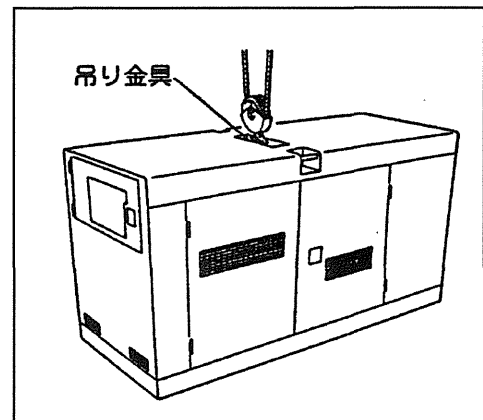


危険: けが

- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。
- ロープ掛金具で吊り上げないでください。本機が落下するおそれがあります。

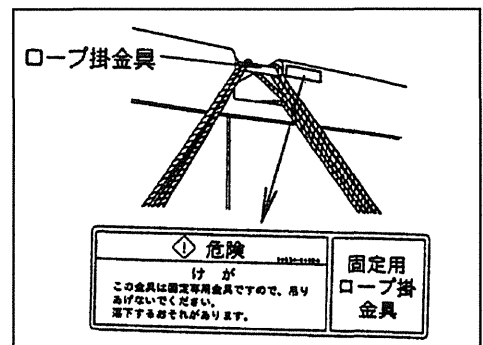
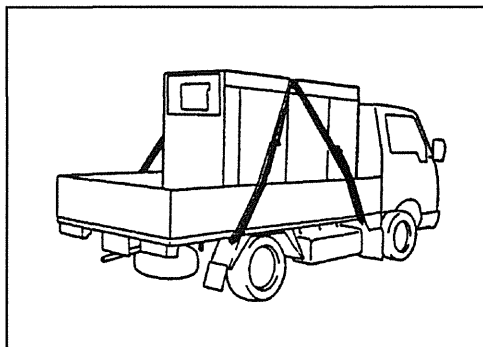
(1) 吊り上げ方法

吊り金具を使用して吊り上げてください。



(2) 運搬

本機を運搬するときは、左右のロープ掛金具にロープを掛け、しっかりと固定して行ってください。



<注意>

- 本機の吊り上げ・吊り降ろし、また運搬の際は丁寧に取り扱ってください。
- 乱暴に取り扱くと本機の損傷、故障の原因となります。

6-2. 据え付けの方法



危険: 排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



注意: 排気ガス中毒

- 排気を通行人や建物などに向けないでください。



注意: 火災

- 本機は、壁などの障害物から 1 m 以上離し、水平な場所で運転してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。

■ 本機は、固い平坦な地盤に水平に設置してください。

■ 操作パネル扉・左右点検扉は、内部の点検整備が行えるように、壁などの障害物から 1 m 以上離して設置してください。

<注意>

- 本機は、固い平坦な地盤に水平に設置して使用することを前提にして作られています。
従って、それ以外の設置方法での使用は故障の原因となりますので注意してください。
- ラジエーターの排風口、マフラーの排気口の方向に障害物を置かないでください。
エンジンの出力低下・オーバーヒート・電装部品の故障の原因になります。
- ほこりや塩分の多い場所での使用は、ラジエーターの目詰まりによるオーバーヒートや故障・電装部品の絶縁低下の原因になりますので、十分に保守・点検を行ってください。

7. 負荷の接続

7-1. 負荷ケーブルの選定

ケーブルに使用できる許容電流と、本機から使用機器までの距離を考慮し、十分な太さのケーブルを使用してください。



注意: 物的損害

- 負荷電流がケーブルの許容電流を越えると発熱によりケーブルが焼損することがあります。
- ケーブルが長すぎたり、細すぎたりするとケーブル間での電圧降下が大きくなり、使用機器への入力電圧が下がり性能低下や作動不良、また故障の原因になります。

<注意>

- ケーブル間での電圧降下が、定格電圧の5%以内となるように太さと長さを選定してください。

■負荷ケーブルの電圧降下を求める簡略式

- 三相の場合

$$\text{電圧降下 (V)} = \frac{1}{58} \times \frac{\text{長さ (m)}}{\text{太さ (mm}^2\text{)}} \times \text{電流 (A)} \times \sqrt{3}$$

- 単相の場合

$$\text{電圧降下 (V)} = \frac{1}{58} \times \frac{\text{長さ (m)}}{\text{太さ (mm}^2\text{)}} \times \text{電流 (A)} \times 2$$

■負荷ケーブルの選定表

(例) 使用電圧が220Vで、電圧降下を11Vとしたとき。

三相 キャブタイヤケーブル単芯の場合

(単位: mm²)

長さ 電流	50m以下	75m	100m	125m	150m	200m
20A	3.5	5.5	8	8	14	14
40A	8	14	14	14	22	22
60A	14	14	22	22	30	38
80A	14	22	22	30	38	50

(例) 使用電圧が100Vで、電圧降下を5Vとしたとき。

単相 キャブタイヤケーブル単芯の場合

(単位：mm²)

電流 \ 長さ	50m以下	75m	100m
10A	5.5	5.5	8
20A	8	14	22
30A	14	22	22
50A	22	30	30
100A	30	50	60

7-2. 負荷ケーブルの接続方法



危険: 感電

- 出力端子への負荷ケーブルの取り付け・取りはずしは、必ずすべてのブレーカーを『OFF』にし、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。



注意: 火災

- 発電機出力を屋内配線に接続しないでください。

<注意>

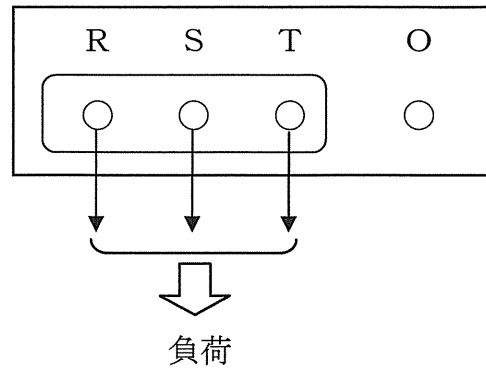
- 負荷の接続は、発電機の出力セット、出力端子の接続位置と負荷の電源が合っていることを確認してください。
- O端子を使って単相負荷を使用する場合は、各相の電流が均等になるよう注意してください。
- 三相出力と単相3線式出力を同時使用する場合には、合計電流が三相の定格電流を超えない範囲で使用してください。
- 三相出力と単相3線式出力を同時使用する場合には、お互いの出力に影響を及ぼす場合がありますので注意してください。

(1) 三相出力端子

■三相負荷の場合

- 端子電圧は200/220V [400/440V]
(50/60Hz) です。

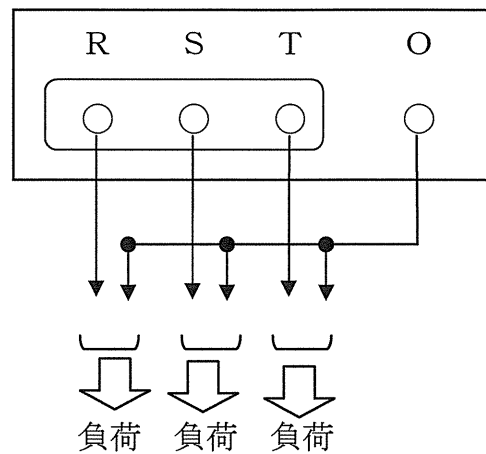
※ [] オプション (200/400V切替機能) 400V設定時



■単相負荷の場合

○ 端子電圧は115/127V [230/254V]
(50Hz/60Hz)です。

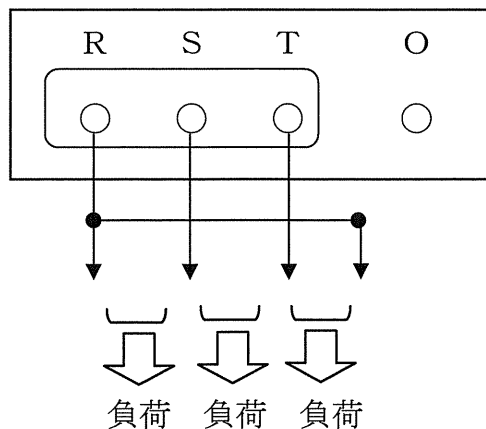
※ [] オプション (200/400V切替機能) 400V設定時



■単相負荷の場合

○ 端子電圧は200/220V [400/440V]
(50Hz/60Hz)です。

※ [] オプション (200/400V切替機能) 400V設定時

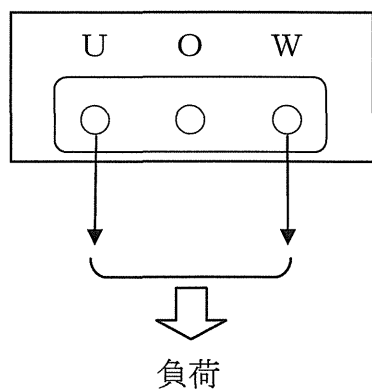


(2) 単相3線式出力端子およびコンセント

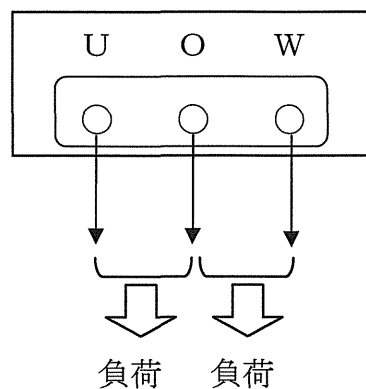
■単相3線式負荷の場合

○ U-W端子電圧は200/220V (50Hz/60Hz) です。
U-O端子電圧は100/110Vです。
W-O端子電圧は100/110Vです。

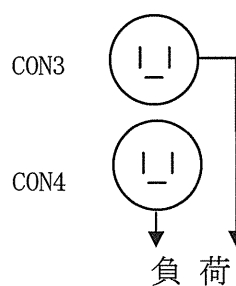
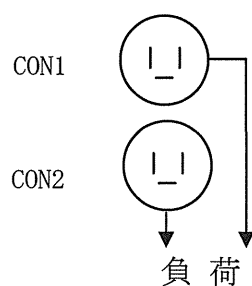
■単相200/220V負荷の場合



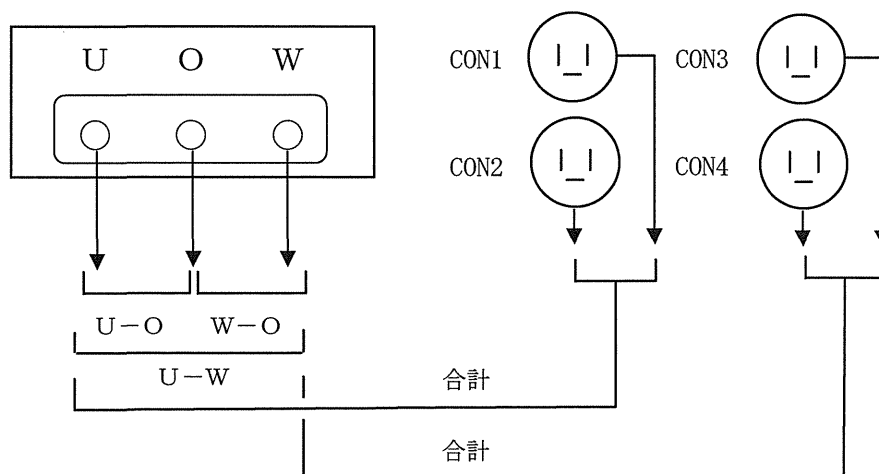
■単相100/110V負荷の場合



■単相100/110Vコンセント



■出力端子と併用使用しない場合、各端子およびコンセントで利用できる電力は下記の通りです。



以下のkVAまで使用できます。

単相3線式出力端子		単相100/110コンセント				合計
		CON1	CON2	CON3	CON4	
U-W	12/15 [6/7.5]	1.5/1.65	1.5/1.65	1.5/1.65	1.5/1.65	12/15 [6/7.5]
U-O	6/7.5 [3/3.25]					6/7.5 [3/3.25]
W-O	6/7.5 [3/3.25]					6/7.5 [3/3.25]

※ [] オプション (200/400V切替機能) 400V設定で使用する場合。

<注意>

- 単相100/110V（出力端子U-O/W-O間）を使用する場合は、U-O/W-O間で負荷が均等になるようにしてください。
- 単相3線式出力端子およびコンセント出力を同時に使用する場合は、各相に流れる電流が本機の定格電流以下となるようにしてください。
- 三相400V設定（オプション）で使用する場合は、単相3線式出力電圧は、三相200V設定時と同じ単相200V/220V・100/110Vを出力しますが、使用できる電力は半分になりますので負荷の取りすぎに注意してください。

7-3. 漏電遮断装置と接地の方法



危険: 感電

- 接地工事は、必ず指示するすべての箇所に行ってください。いずれか1つでも接地しなかった場合、人体を漏電電流が流れ、漏電遮断装置を装備していないときより危険な状態となります。
- 使用機器の漏電遮断装置を接地した場合でも、本機の漏電遮断用接地端子と外箱接地端子は必ず接地してください。
- 接地工事は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 漏電遮断装置が作動したときは、必ず漏電箇所を修理してください。

本機は、感電事故防止のため漏電警報器より信号を受けてブレーカーを遮断させる漏電遮断装置を装備しています。

使用機器の絶縁不良などにより漏電が発生したとき、すみやかに電路を遮断します。

漏電警報器の仕様は次の通りです。

- 定格感度電流 30mA以下（接地抵抗500Ω以下）
- 作動時間 0.1秒以内

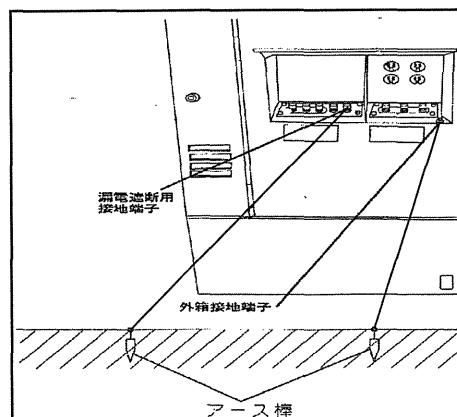
<注意>

- 他の感度電流の漏電警報器も取り付け可能です。ただし、その場合必要とする接地抵抗値、接地用コンデンサの容量などが異なってきますので、別途弊社営業所にご相談ください。また感度電流30mAを超える場合(100, 200, 500mA など)は、感電防止用としては不十分となります。その場合、各負荷ごとに感度電流30mA以下の漏電遮断器を取り付けてください。感度電流の選定に関する詳しい情報は、内線規定(社)日本電気協会)の151.2項「漏電遮断器などの選定」を参照してください。

(1) 接地工事

電気工事士等の資格者が、つぎの3箇所すべてにD種接地工事（接地抵抗500Ω以下）を行ってください。

- 本機の漏電遮断用接地端子
- 本機の外箱接地端子
- 使用機器の金属製外箱



<注意>

- 使用機器に接地工事が行えない場合は、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。

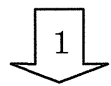
(2) 作動確認



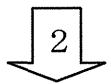
危険: 感電・けが

- ブレーカーを『ON』にするときは、必ず負荷側のブレーカーや使用機器のスイッチが『OFF』になっていることを確認してください。また、負荷側の作業者と良く連絡を取りながらブレーカーの操作を行ってください。

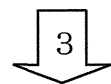
始業前には、必ず作動確認を行ってください。



負荷側のブレーカー、使用機器のスイッチが『OFF』になっていることを確認します。



本機の三相・単相ブレーカーが『OFF』になっていることを確認します。



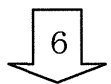
『9-1. 始動・運転準備』に従ってエンジンを始動します。



三相及び単相ブレーカーを『ON』にします。漏電警報器のテストボタンを押します。



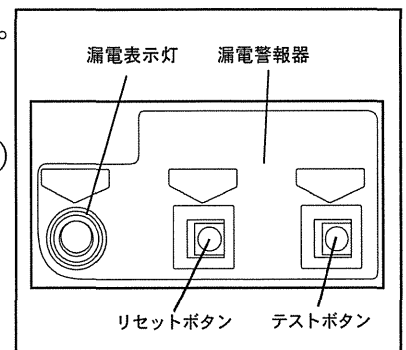
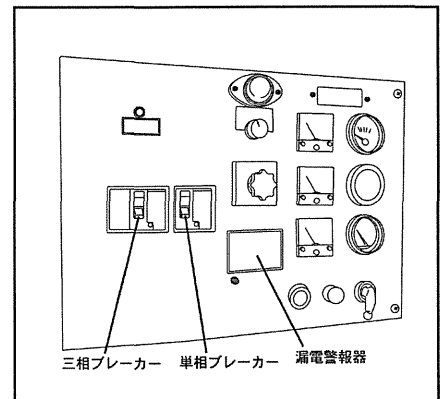
このとき、漏電の漏電表示灯（LEDランプ）が点灯し、三相及び単相ブレーカーのレバーが『ON』と『OFF』の中間位置に移動すれば正常です。



リセットボタンを押します。このとき、漏電表示灯（LEDランプ）が消灯します。



三相及び単相ブレーカーのレバーを『OFF』の位置まで押し下げます。



以上の操作で作動確認できないときは、装置が故障していますので、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

(3) 漏電遮断装置が作動した場合

漏電遮断装置が作動したときは、漏電表示灯（LEDランプ）が点灯し、三相及び単相ブレーカーのレバーが『ON』と『OFF』の中間位置になります。そのときは、漏電箇所を修理してから、つぎの手順で復帰してください。

（漏電表示灯が点灯していないときは、電流の取りすぎです。）

- 1 リセットボタンを押すか、エンジンを停止します。
- 2 三相及び単相ブレーカーのレバーを『OFF』の位置まで押し下げます。

以上の操作で、再びブレーカーを『ON』にできる状態となります。

8. 始業前点検



危険: 感電・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。
- その間、キーは作業する人が保管してください。



注意: 火災・やけど

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。



注意: 火災

- 燃料やオイルをこぼしたときは、必ずふき取ってください。

8-1. エンジンオイルの点検

※ 別冊のエンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージをいっぱいに差し込んで確認してください。始業前にはオイルを上限レベルまでオイルフィラから給油しておいてください。

<注意>

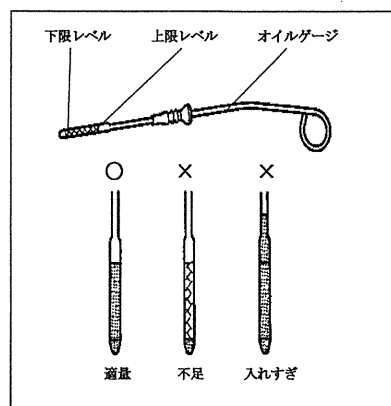
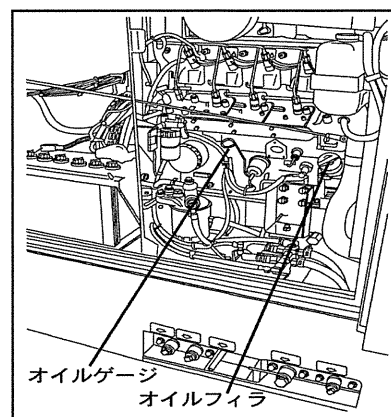
- オイル量の点検はエンジンを停止、あるいは給油して『10～20分後』に点検してください。
- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイルの入れ過ぎはエンジンを破損することがありますので注意してください。

(1) エンジンオイルの種類

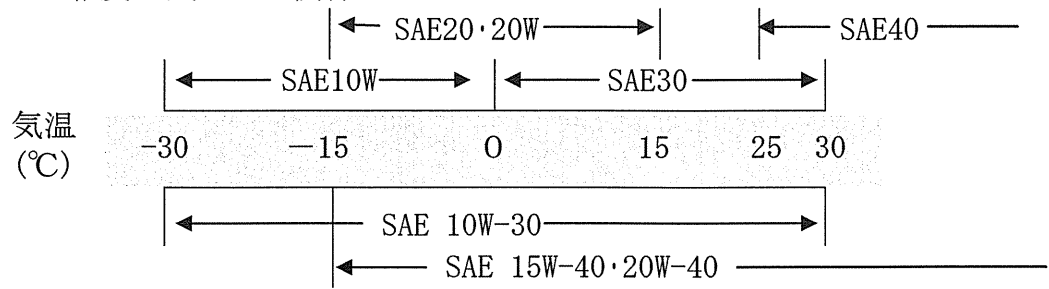
API サービス分類のCC級以上を使用してください。

(2) エンジンオイルの粘度

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のディーゼル用エンジンオイルを使用してください。



○ 粘度と気温との関係



(3) エンジンオイル交換油量

単位：L

潤滑油総量(フィルター容量を含む)
8.5 (0.4)

() 内はフィルター容量を示す。

8-2. 冷却水の点検

※別冊のエンジン取扱説明書もあわせてお読みください。



危険: けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。



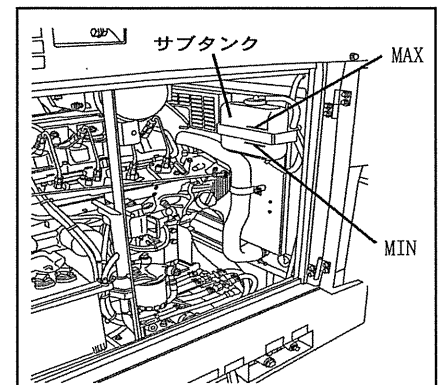
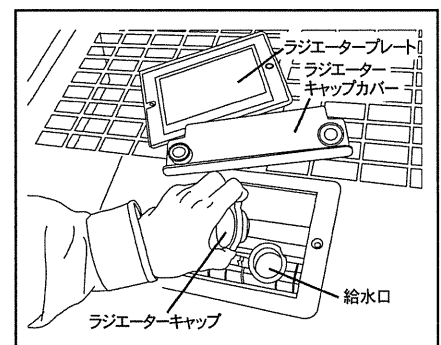
注意: やけど

- 運転中や停止直後は、ラジエーターキャップを開けないでください。熱水蒸気が吹き出します。
- 運転中や停止直後は、エンジンが高温になっていますので、触れないでください。

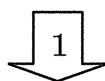
ラジエーターとサブタンクの冷却水量を点検し、不足しているときは給水してください。

(1) ラジエーターの点検・給水

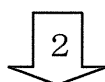
- 1 ラジエータープレート、およびラジエーターキャップカバーをはずします。
- 2 ラジエーターキャップをはずします。
- 3 冷却水を給水口の口元いっぱいまで入れます。
- 4 ラジエーターキャップを締め付けます。
- 5 ラジエーターキャップカバー、およびラジエータープレートを取り付けます。



(2) サブタンクの点検・給水



サブタンク内の冷却水が『MAX』と『MIN』レベルの範囲にあるか点検します。



不足しているときは冷却水を『MAX』まで入れます。

<注意>

- 冷却水は水道水などの水質の良好な軟水に凍結防止・防錆効果のあるアルミラジエーター用ロングライフクーラント（LLC）を混合して使用してください。
- 工場出荷時は、混合率30%のLLC（ISUZU 純正LLC：ベスコLLCスーパータイプE）を使用しています。
- サブタンクにも同混合率のLLCを使用してください。
- LLCの混合率は、外気温に応じて30～50%の範囲で使用してください。
- LLCを補充する場合は、注入してあるものと同じ銘柄を使用してください。
- 異なる銘柄との混合は、行わないでください。
- LLCは2年または1000時間で交換してください。

混合率の目安

外気温度	－15℃	－23℃	－35℃
混合率	30%	40%	50%

(3) 冷却水量

単位：L

冷却水総量(サブタンク容量を含む)
8.2 (0.9)

() 内はサブタンク容量を示す。

8-3. ファンベルトの点検

※別冊のエンジン取扱説明書もあわせてお読みください。



危険:けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。
- 運転中は、点検扉を開けないでください。冷却ファンやベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

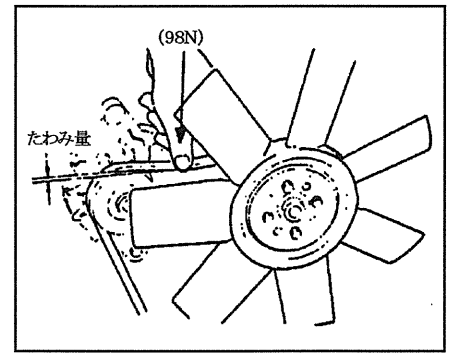


注意:やけど

- エンジン停止直後は、エンジンが高温になっていますので、触れないでください。

(1) ファンベルトの張り

ファンプーリーとオルタネータプーリーの
中間を指で押し(約 98N{10 kg f})『たわみ』
が 8 ～ 10 mm であれば適正です。



(2) ファンベルトの状態

ベルトに損傷がないか点検し、損傷がある
場合は交換してください。

<注意>

- ベルトの調整および交換は、別冊のエンジン取扱説明書に従ってください。

8-4. 燃料の点検



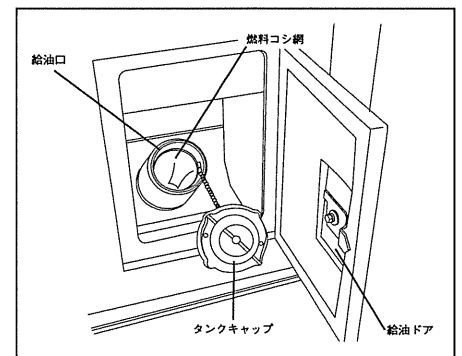
注意: 火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずオイルガードドレンコックを開け、こぼした燃料の排出を行ってください。
(『5-3. オイルガード(P14)』参照)

燃料が十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

<注意>

- 燃料は、ディーゼル用 J I S 2 号軽油 (－5℃まで) を使用してください。
- 寒冷時は、ディーゼル用 J I S 3 号軽油 (－15℃まで) や J I S 特 3 号軽油 (－25℃まで) を使用してください。
- 給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は、満タンより控え目に給油してください。



8-5. オイルガードの点検

オイルガードドレンコックを開け、内部に溜まった液体を排出してください。(『5-3. オイルガード(P14)』参照)

また、排出した液体にオイルなどが混入している場合には、燃料もれ、オイルもれの可能性がありますので、もれ箇所の確認をしてください。

8-6. 燃料・オイル・冷却水もれの点検



注意: 火災

- 燃料やオイルのもれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれ、およびオイルや冷却水のもれがないかどうか、点検扉を開けて点検してください。

8-7. バッテリーの点検



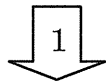
注意: 目や皮膚の障害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。



注意: 爆発

- バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。



液面高さを点検し、下限レベルに近いときは蒸留水を上限レベルまで補給します。



端子のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めしてください。

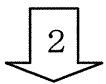
<注意>

- バッテリー液の比重が 1.23 以下のときは充電が必要です。お求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。

■ バッテリーの交換方法



バッテリーの『-』側ケーブルをはずします。(必ず『-』側を先にはずします。)



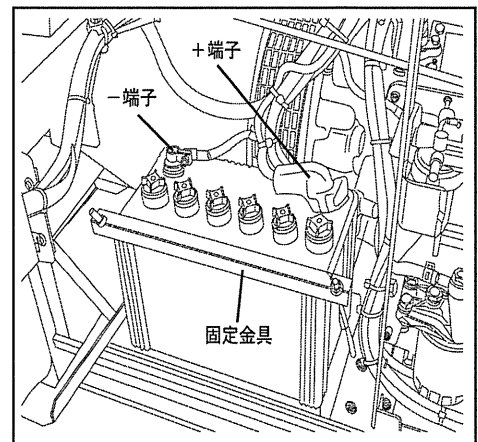
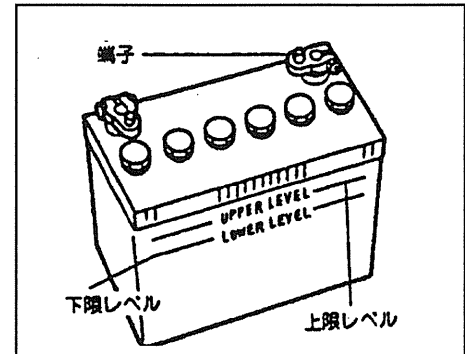
バッテリー固定金具をはずします。



『+』側ケーブルをはずします。



バッテリーを取り出します。



※バッテリーの取り付けは逆の手順で行います。(交換したバッテリーの『+』側ケーブルを先に取り付けます。)

9. 運転方法

9-1. 始動・運転準備



危険: 排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



注意: 排気ガス中毒

- 排気を通行人や建物などに向けないでください。



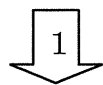
注意: 火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。

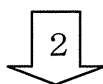


注意: けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。



本機操作パネルの三相、および単相ブレーカーを『OFF』にします。



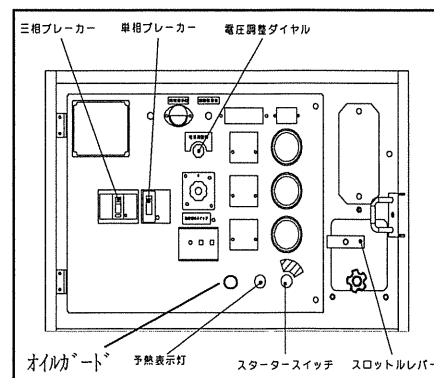
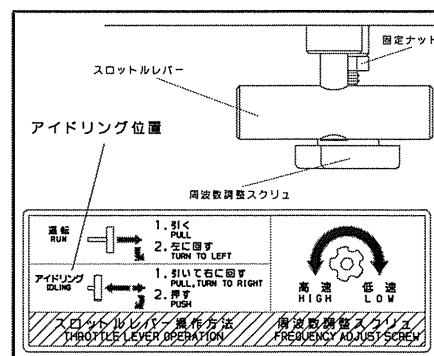
スロットルレバーを『アイドリング』の位置にします。



スタータースイッチを『運転・予熱』の位置にします。



予熱表示灯が『点灯』から『消灯』になったら、ただちに『始動』の位置にし、エンジンを始動します。



<注意>

- 予熱時間は、冷却水温の状態にかわり、約1～5秒で完了します。
- セルモーターは、10秒以上連続してまわさないでください。
- スタータースイッチの操作を繰り返すときは、30秒以上操作間隔をあけてください。

5 エンジンが始動したら、スタータースイッチから手を離します。

6 約5分間、暖機運転をします。

7 スロットルレバーを『運転』の位置にします。
下記の無負荷周波数になっているか確認します。

	無負荷周波数（回転速度）
50Hz 運転	約52.5Hz（1575min ⁻¹ ）
60Hz 運転	約63.0Hz（1890min ⁻¹ ）

<注意>

- 周波数が合っていない場合、または周波数を変更する場合は『周波数調整スクリュ』で調整してください。
- 無負荷時に上記周波数に調整すると、定格負荷時にほぼ50Hzまたは60Hzになります。

8 電圧調整ダイヤルで規定電圧にあわせます。

50Hz 運転	200V [400V]
60Hz 運転	220V [440V]

※ [] オプション（200／400V切替機能）400V設定で使用する場合。

9 ブレーカーを『ON』にすることで送電状態になります。



危険: 感電・けが

- ブレーカーを『ON』にするときは、必ず負荷側のブレーカーや使用機器のスイッチが『OFF』になっていることを確認してください。
また、負荷側の作業者と良く連絡を取りながらブレーカーの操作を行ってください。

9-2. 200/400V切替機能(オプション)

本機に200/400V切替機能部品(オプション)を装備すると、操作パネル面に設けた電圧切替スイッチのレバーを切り替えることで三相出力を200Vまたは400Vに切り替えて使用することができます。



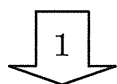
危険: 感電

- 電圧切り替え作業を行う場合はブレーカーを『OFF』にし、運転を停止してから行ってください。

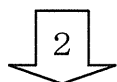


注意: 物的損害

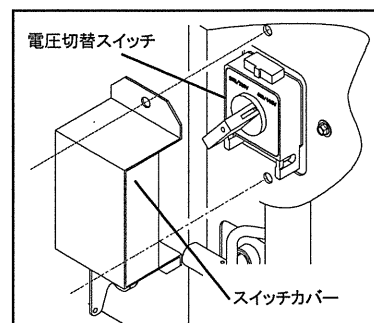
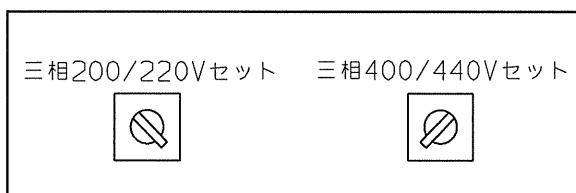
- 発電機の出セット、出力端子の接続、負荷の電源が一致していることを確認してください。



本機操作パネルの三相、および単相ブレーカーを『OFF』にします。



スイッチカバーをはずして、電圧切替スイッチのレバーを使用する出力セットに切り替えてください。

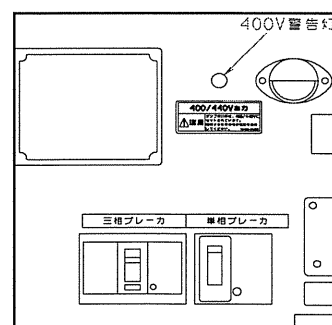


三相200V、400V 電源は三相出力端子に出力されます。『7-2. 負荷ケーブルの接続方法』を参照してケーブルを接続してください。



エンジン始動前に、スタータスイッチを『運転』位置にして、400V警告等にて発電機の出セット状態を再確認してください。

- 三相400/440Vセットの場合『点灯』
- 三相200/220Vセットの場合『消灯』



エンジンを始動し、三相ブレーカーを『ON』にすることで、三相出力端子に電源が送電されます。

<注意>

- 三相400V設定(オプション)で使用する場合、単相3線式出力電圧は、三相200V設定時と同じ単相200V/220V・100/110Vを出力しますが、使用できる電力は半分になりますので負荷の取りすぎに注意してください。

9-3. 運転中の取り扱い

(1) 始動後の点検

- 計器類や表示灯が正常な状態か確認してください。
(『5. 装備』参照)
- 異常振動や異常音がしないか確認してください。
- 排気ガスの色が正常か確認してください。正常な状態では無色か、わずかに青色の排気ガスが出ます。

<注意>

- 異常がある場合は、本機をそのまま使用せずに、お買い求めの販売店か、弊社営業所に修理を申し付けてください。

(2) 運転中の調整

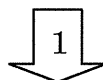
- 負荷運転中、周波数計と電圧計を確認しながら、周波数調整スクリューと電圧調整ダイヤルで周波数と電圧を微調整してください。

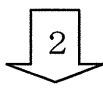
■燃料切れで停止したときの燃料系統のエア抜き

※別冊のエンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

本機は、自動エア抜き機構を装備しています。

燃料切れでエンジンが停止しても、下記の手順で容易にエア抜きができます。

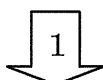
 1 燃料を給油します。

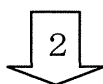
 2 スタータースイッチを『運転』の位置にします。
約30秒でエア抜きが完了します。

<注意>

- スロットルレバーを『アイドリング』の位置にし、エンジンを始動させ、完全にエアが抜けたことを確認してください。エア抜きが不十分な場合、エンジンの回転が安定しません。その場合、再度エア抜き操作を行ってください。

9-4. 停止

 1 負荷側のスイッチとブレーカーを『OFF』にします。

 2 本機操作パネルの三相、および単相ブレーカーを『OFF』にします。

 3 スロットルレバーを『アイドリング』の位置にします。

 4 約3分間、冷機運転をします。

 5 スタータースイッチを『停止』にします。

9-5. 保護機能

本機は運転中に異常が発生すると自動停止する機能と、異常箇所を警告灯で知らせる機能を装備しています。

エンジンが自動停止したとき、また警告灯が点灯したときはエンジンを停止し、異常箇所の点検を行ってください。

保護機能一覧表

No.	動作内容 異常内容		ブレーカ 遮断	エンジン 自動 停止	警告灯 点灯	異常時の状態
1	モ ラ ニ ン タ プ 	水温上昇	—	○	○	エンジンの冷却水温が高くなったときに作動 設定値 110℃
2		油圧低下	—	○	○	エンジンの油圧が低下したときに作動 設定値 $0.98 \times 100\text{kPa}$ {1.0kgf/ c m ² }
3		充電不良	—	—	○	バッテリーに充電ができなくなったときに作動
4		エンジン 過回転	—	○	○	エンジン回転数が 2070min ⁻¹ 以上
5	漏電発生		○	—	○	漏電発生時に作動
6	過負荷使用		○	—	—	過負荷使用時に作動

※表中の○印は作動することを示します。

10. 点検・整備



危険: 感電・けが

- 必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。



注意: 火災・やけど

- 必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。



注意: 火災

- 燃料やオイルをこぼしたときは、必ずふき取ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検と整備を行ってください。

稼働時間は、積算時間計を目安にしてください。

<注意>

- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 表中の●印はお求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。エンジンの点検・整備は主要点検項目のみ記載しています。詳細な点検項目については、別冊のエンジン取扱説明書に従ってください。交換部品は、必ず純正品を使用してください。

項 目		始業前 点検	200 時間 ごとに	400 時間 ごとに	500 時間 ごとに	1000 時間 ごとに
エンジン側	各部の清掃・締付点検	○				
	エンジンオイルの点検・給油	○				
	エンジンオイルの交換	第 1 回目 ○(50 時間目)	第 2 回目以降 ○			
	オイルフィルターの交換	第 1 回目 ○(50 時間目)		第 2 回目以降 ○		
	冷却水の点検・給水	○				
	エンジン排気色の点検	○				
	冷却水（L L C）の交換					○ (または 2 年)
	水分離器内の沈殿物・水分の排出	○	○ (水抜き)			
	燃料フィルターの水抜きと交換		○ (水抜き)		○ (交換)	
	燃料タンクの水抜き		○			
	水分離器・エンジンフィードポンプのゴーズフィルターの清掃				○ (清掃)	
	燃料自動エア抜き用電磁ポンプ内のフィルター交換					○ (交換)
	燃料タンク内部清掃					●
	燃料・オイル・冷却水漏れの点検	○				
	燃料ホースの交換					● (または 1 年)
	エアフィルターエレメントの清掃・交換		○ (清掃)		○ (交換)	
	バッテリー液量の点検	○				
	バッテリー比重の点検				○	
	ファンベルトの点検	○				
	ラジエーターの清掃				●	
	エンジンバルブクリアランスの点検・調整					●
	エンジン圧縮圧力の点検					●
	燃料噴射ノズルの点検			●		
	燃料噴射時期の点検					●
発電機側	各計器の作動 警告ランプの点検	○				
	漏電警報器の動作確認	○				
	漏電遮断用接地抵抗の確認	○				
	絶縁抵抗の測定		○			
その他	オイルガード液体の排出・清掃	始業前 ○(排出)			● (清掃)	

(1) エンジンオイルの交換

初 回	50時間目
2回目以降	200時間ごと

- 1 オイルフィラキャップをはずします。
- 2 オイルドレンプラグをはずしドレンコックを開にし、エンジンオイルを抜きます。
- 3 ドレンコックを閉にし、オイルドレンプラグを締め付けます。
- 4 オイルゲージで油面レベルを確認しながら、オイルフィラからオイルを上限レベルまで入れます。
- 5 オイルフィラキャップを締め付けます。

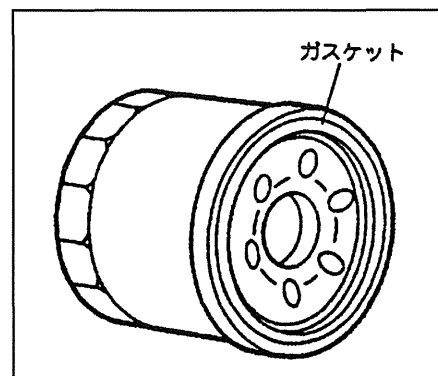
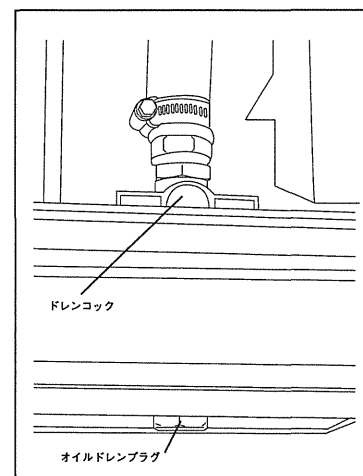
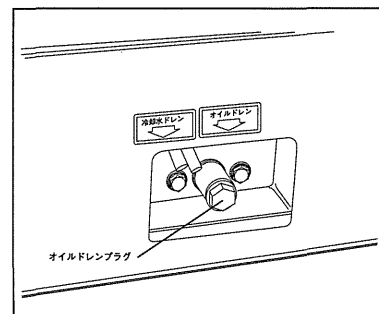
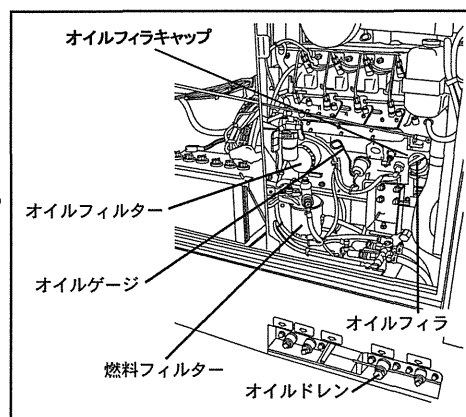
<注意>

エンジンオイルの交換油量及び種類は、『8-1. エンジンオイルの点検』を参照してください。

(2) オイルフィルターの交換

初 回	50時間目
2回目以降	400時間ごと

- 1 『(1) エンジンオイルの交換』の要領で、エンジンオイルを抜きます。
- 2 フィルターレンチでオイルフィルターをはずします。
- 3 新品のオイルフィルターのガスケットにオイルを薄く塗布します。
- 4 オイルフィルターを手でねじ込み、シール面にガスケットが接触してから、フィルターレンチで、『3/4～1回転』締め付けます。
- 5 エンジンオイルを給油します。



<注意>

- フィルターレンチがないときは、お求めの販売店か弊社営業所に交換を申し付けてください。
- オイルフィルター品番

いすゞ品番	8 9 4 4 5 6 7 4 1 1
-------	---------------------

(3) エアフィルターエレメントの清掃・交換

清 掃	2 0 0 時間ごと
交 換	5 0 0 時間ごと

- 1 エアークリーナーの取付ボルトをゆるめ、クリーナーキャップをはずします。
- 2 蝶ナットをゆるめ、エアフィルターエレメントをはずします。
- 3 エアフィルターエレメントを清掃または交換し、逆の手順で組み込みます。

<注意>

- クリーナーキャップは、必ず矢印方向を上にしてください。
- ホコリの多い場所で使用するときは、早めに清掃してください。
- エレメント品番

いすゞ品番	5 1 4 2 1 5 0 1 4 0
-------	---------------------

■エアフィルターエレメントの清掃方法

<乾燥したホコリが付着している場合>

圧縮空気をエレメントの内側から吹き付けます。

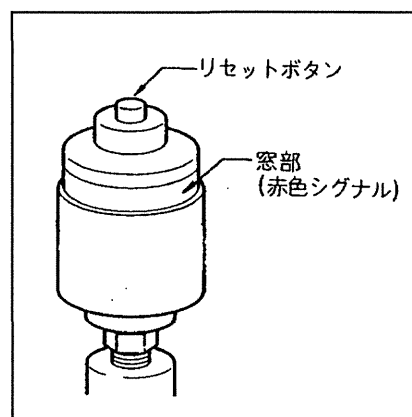
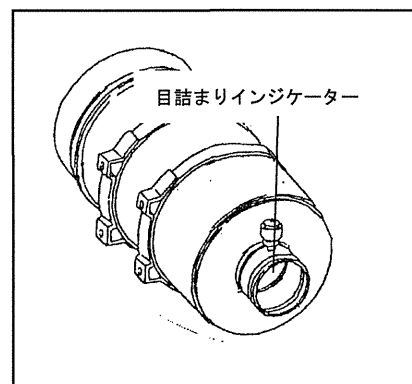
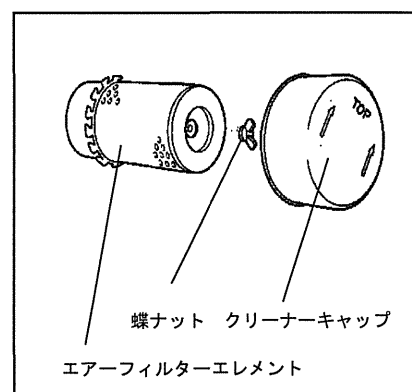
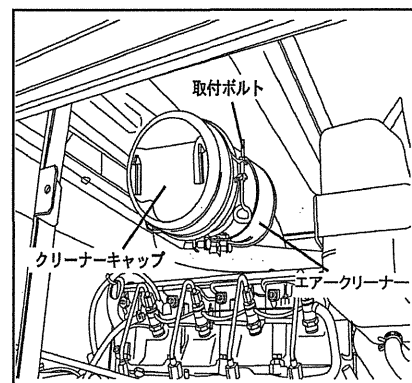
<カーボンや油分が付着している場合>

新品と交換してください。

■目詰まりインジケータ

エアフィルターエレメントの目詰まりを知らせるインジケータが取り付けられています。

- インジケータの窓部に『赤色』が出ているときは、使用時間にかかわらずエレメントの清掃あるいは交換をしてください。
- 清掃あるいは交換後リセットボタンを押して赤色シグナルを解除してください。



(4) 水分離器の水抜き

点 検	始業時
清 掃	500時間ごと

カップ内のフロート（赤色）が20mm位まで浮上したら水抜きをしてください。

1 燃料コックを『閉』にします。

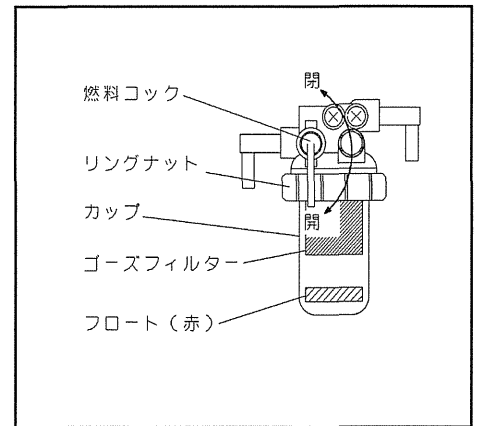
2 リングナットを左にまわしてはずし、カップとゴーズフィルターを取りはずします。

3 カップ内の水やゴミを捨てます。ゴーズフィルターにゴミが付着している時は、圧縮空気を吹き付けて掃除します。

4 元のように組み付けます。

<注意>

- カップを取り付けるとき、Oリング部にゴミが付着していないことを確認してください。
- 取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを必ず、確認してください。



(5) 燃料フィルターの水抜きと交換

水抜き	200時間ごと
交 換	500時間ごと

1 水分離器の燃料コックを『閉』にします。

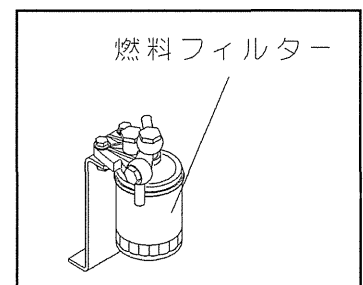
2 フィルターレンチで燃料フィルターをはずします。

3 燃料フィルター内の水を捨てます。

4 新品の燃料フィルターと交換するときは、ガスケットにオイルを薄く塗布します。

5 燃料フィルターを手でねじ込み、シール面にガスケットが接触してから、フィルターレンチで『2/3回転』締め付けます。

6 水分離器の燃料コックを『開』にします。



<注意>

- フィルター取り付け後は、エンジンを始動して燃料もれがないことを、必ず確認してください。
- フィルターレンチがないときは、お求めの販売店か弊社営業所に交換を申し付けてください。
- フィルターを取りはずした時に、配管内の燃料がこぼれた時は、必ず拭き取ってください。
- 燃料フィルター品番

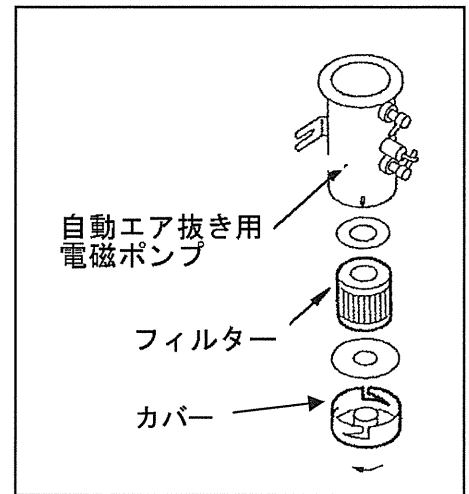
いすゞ品番	8 9 4 3 9 4 0 7 9 1
-------	---------------------

(6) 燃料自動エア抜き用電磁ポンプ内のフィルター交換

交 換	1 0 0 0 時間ごと
-----	--------------

↓ 1 ポンプ下部のカバーを左に回し、フィルターを取り出します。

↓ 2 交換フィルターを、逆の手順で取り付けます。



<注意>

- フィルター交換時、燃料がこぼれますので燃料の受け皿を用意してください。
- フィルターの交換が終わったら、燃料系統の『エア抜き』を行ってください。

(『9-3. 運転中の取り扱い』参照)

- 組み込み後は、燃料漏れのないことを確認してください。
- フィルター品番

いすゞ品番	8 9 4 3 3 7 0 2 2 0
-------	---------------------

(7) 燃料タンクの水抜き

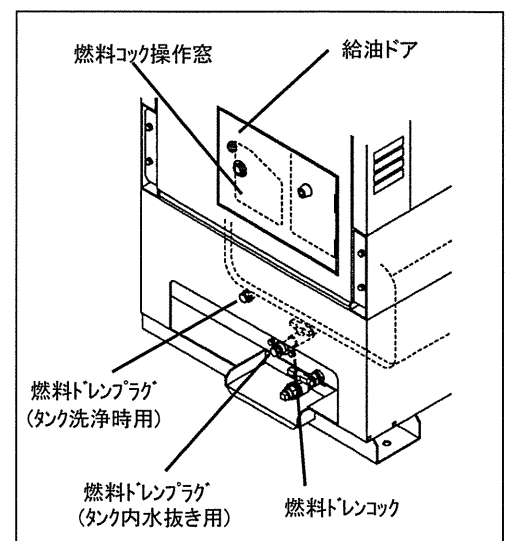
水抜き	2 0 0 時間ごと
-----	------------

↓ 1 燃料ドレンプラグをはずします。

↓ 2 給油ドアを開け、燃料コック操作窓より手を入れて、燃料ドレンコックを『開』にします。

↓ 3 水が抜けたら、燃料ドレンコックを『閉』にします。

↓ 4 燃料ドレンプラグを締め付けます。



(8) 冷却水の交換

交換

2年間または1000時間

1 ラジエータープレート、およびラジエーターキャップカバーをはずします。

2 ラジエーターキャップをはずします。

3 ラジエータードレンコック、およびエンジン側のドレンプラグを緩めます。

4 冷却水が抜けたら、ラジエータードレンコックとエンジン側のドレンプラグを締め付けます。

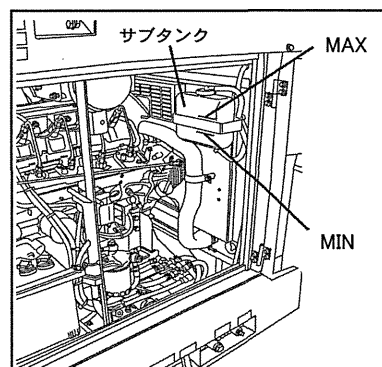
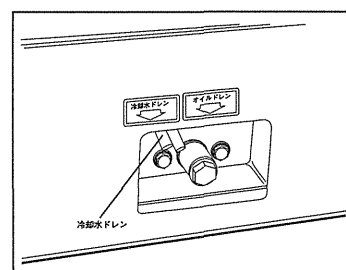
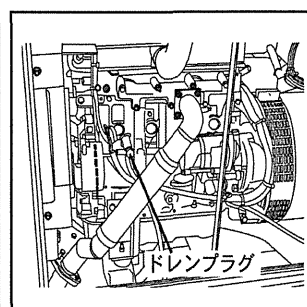
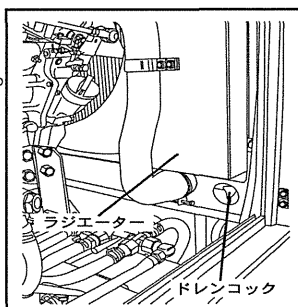
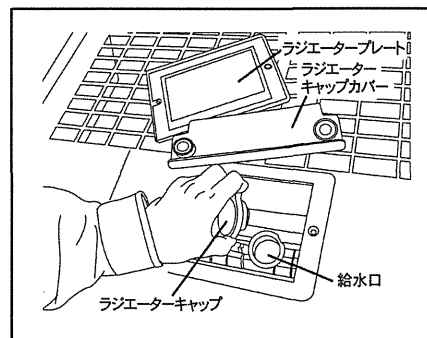
5 サブタンクをはずし、サブタンク内の冷却水を排出します。

6 サブタンクを元通りに取り付け、『MAX』レベルまで冷却水を入れます。

7 ラジエーターに冷却水を口元いっぱいまで入れます。

8 ラジエーターキャップを締め付けます。

9 ラジエーターキャップカバー、およびラジエータープレートを取り付けます。



<注意>

○ 冷却水は『8-2. 冷却水の点検』を参照してください。

11. 長期保管



危険: 感電・けが

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。その間、キーは作業する人が保管してください。



注意: 火災・やけど

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

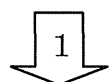


注意: 火災

- 燃料やオイルをこぼしたときは、必ずふき取ってください。

(1) 保管方法

本機を2カ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行って保管してください。



バッテリーをはずします。



エンジンオイルを交換します。



燃料タンクと燃料フィルターの燃料を抜きます。



オイルガード内の液体を排出します。



各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所に保管します。また、保管時には、吸気、排気穴から雨水が入らないようにカバーなどをかけておきます。

<注意>

- 取りはずしたバッテリーは、月1回程度充電を行ってください。
- エンジン関係の処置については、別冊のエンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

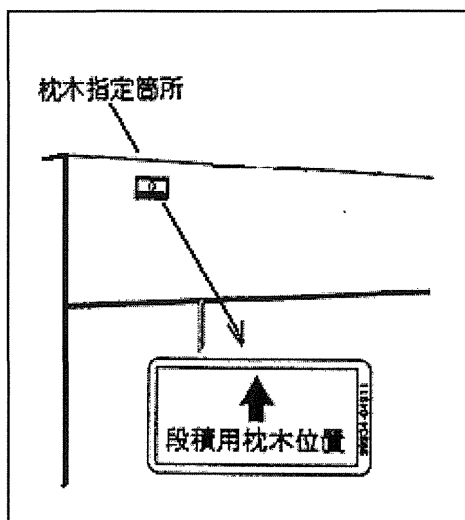
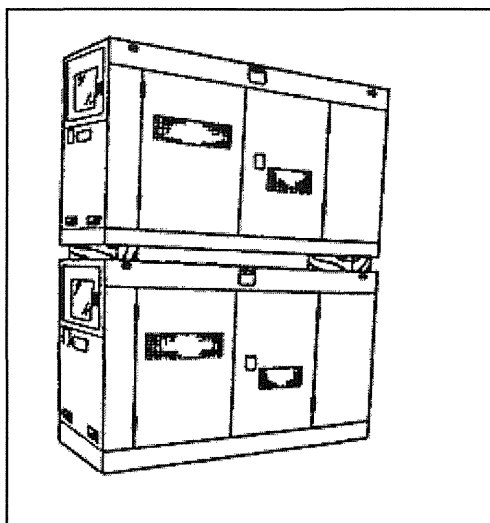
(2) 二段積みの方法



危険: けが

本機を二段積みにして、倉庫などに格納するときは、必ず次の事項を守ってください。

- 本機のボンネットにへこみや、ボルト類のゆるみ欠落がないことを確認してください。
- 二段積みの重量に耐えられる固い地盤に、水平に置いてください。
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。
- 発電機と発電機との間には、指定箇所に同一サイズで本機幅より長い枕木を入れ、その上に発電機を置いてください。
- 積み重ねは二段までとし、下になる機械の重量・寸法より大きい機械はのせないでください。
- 二段積みの状態で機械の運転をしないでください。



12. 故障時の対応



危険: 感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。



注意: けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。



注意: 火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから点検等を行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
点検しても正常にならないときは、お求めの販売店が弊社営業所に修理を
申し付けてください。

故障の状況		推 定 原 因	処 置
エンジンが 始動しない	スターターが回らない または回転が遅い	1. バッテリー上がり 2. バッテリーの劣化 3. バッテリー端子のはずれ、緩み 4. バッテリー端子の腐食 5. スタータースイッチ、リレーの不良 6. スターターの不良	1. バッテリー液量の点検・充電 2. バッテリーの交換 3. 端子の取り付け、増締め 4. 端子の清掃 5. 指定サービス工場での修理 6. 指定サービス工場での修理
	スターターはよく回 るが始動しない	1. 燃料の不足 2. 燃料フィルターの目詰まり 3. ゴースフィルターの目詰まり 4. 自動エア抜き用電磁ポンプフィルタ ーの目詰まり 5. 燃料系統に水が混入 6. 燃料系統にエアが混入 7. 燃料カットソレノイド（モータ） が作動しない	1. 燃料を給油する 2. 燃料フィルターの清掃、交換 3. ゴースフィルターの清掃、交換 4. フィルターの清掃、交換 5. 水分離器、燃料フィルター、燃料 タンクの水抜き 6. エア抜きをする 7-1. ヒューズの点検、交換 7-2. 燃料カットソレノイド（モー タ）の点検、交換
	<外気が氷点下にな っている>	1. 燃料が凍結している 2. 燃料系統に混入した水が凍結して いる 3. 予熱装置の故障	1. 寒冷地用の燃料を使用する 2. 燃料系統の水抜き 3. 指定サービス工場での修理
エンジンは始動するがすぐ に停止する		1. 燃料フィルターの目詰まり 2. ゴースフィルターの目詰まり 3. 燃料系統に水が混入 4. 燃料系統にエアが混入 5. エアフィルターエレメントの目 詰まり 6. オイル不足	1. 燃料フィルターの清掃、交換 2. ゴースフィルターの清掃、交換 3. 水分離器、燃料フィルター、燃 料タンクの水抜き 4. エア抜きをする 5. エアフィルターエレメントの 清掃、交換 6. オイルを給油
エンジン油圧が低い		1. オイル不足 2. オイルフィルターの目詰まり 3. 油圧スイッチの不良 4. 油圧計の不良（オプション） 5. オイル不適當	1. オイルを給油 2. オイルフィルターの交換 3. 指定サービス工場での修理 4. 指定サービス工場での修理 5. 適正な種類、粘度のオイルと交換
オーバーヒートする		1. エンジンのサーモスタットの不良 2. 水温センサーの不良 3. 水温計の不良 4. ファンベルトの緩み 5. 冷却水の不足 6. ラジエーターコアの目詰まり	1. 指定サービス工場での修理 2. 指定サービス工場での修理 3. 指定サービス工場での修理 4. ファンベルトの点検、調整 5. 冷却水の点検、給水 6. ラジエーターコアの清掃

マフラーから黒煙がでる	1. エアークリッターエレメントの目詰まり 2. 噴射ノズルの不良 3. 燃料不適合	1. エアークリッターエレメントの清掃、交換 2. 指定サービス工場での修理 3. 清潔な燃料に交換する
マフラーから白煙がでる	1. オイルの上がり、下がり 2. 燃料に水混入 3. 噴射ノズルの不良 4. 冷却水温が低い 5. エンジンのサーモスタットの不良	1. 指定サービス工場での修理 2. 水分離器、燃料フィルター、燃料タンクの水抜き 3. 指定サービス工場での修理 4. 暖機運転をする 5. 指定サービス工場での修理
電圧計がふれない	1. 電圧計の不良 2. AVRの不良 3. 配線の断線、端子の緩み、外れ 4. 初期励磁回路の不良 5. 発電機の不良 6. AVRの保護装置が作動	1. 指定サービス工場での修理 2. 指定サービス工場での修理 3. 指定サービス工場での修理 4. 指定サービス工場での修理 5. 指定サービス工場での修理 6. AVRのヒューズを交換する
定格電圧にならない	1. 電圧計の不良 2. AVRの不良 3. 電圧調整ボリュームの不良 4. 周波数が低い	1. 指定サービス工場での修理 2. 指定サービス工場での修理 3. 指定サービス工場での修理 4. 周波数を調整する
電圧が高すぎる	1. 電圧計の不良 2. AVRの不良 3. 負荷ケーブルの誤接続 4. 電圧切替（オプション）が400Vセットになっている	1. 指定サービス工場での修理 2. 指定サービス工場での修理 3. 出力端子への接続位置を正しくセットする 4. 電圧切替を200Vセットに変える
機器を使用すると電圧が大きく低下する	1. AVRの不良 2. 負荷接続のアンバランス 3. 周波数が異なる 4. 使用機器の電流が定格をこえている 5. 過負荷 6. AVRの保護装置が作動	1. 指定サービス工場での修理 2. 接続を変えバランスをとる 3. 機器の指定周波数にあわせる 4. 使用できる容量の機器に変える 5. 負荷電流の合計を定格電流以下とする 6. AVRのヒューズを交換する
ブレーカーを『ON』にできない	1. ブレーカーのレバーが『ON』と『OFF』の中間位置になっている 2. 負荷側の短絡 3. 漏電警報器の作動 4. サーマルリレーの作動	1. レバーをいったん『OFF』にする 2. 負荷側を点検する 3. 漏電箇所を修理する 4. サーマルリレーをリセットする

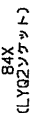
DGM250UMI-P 主回路



注記

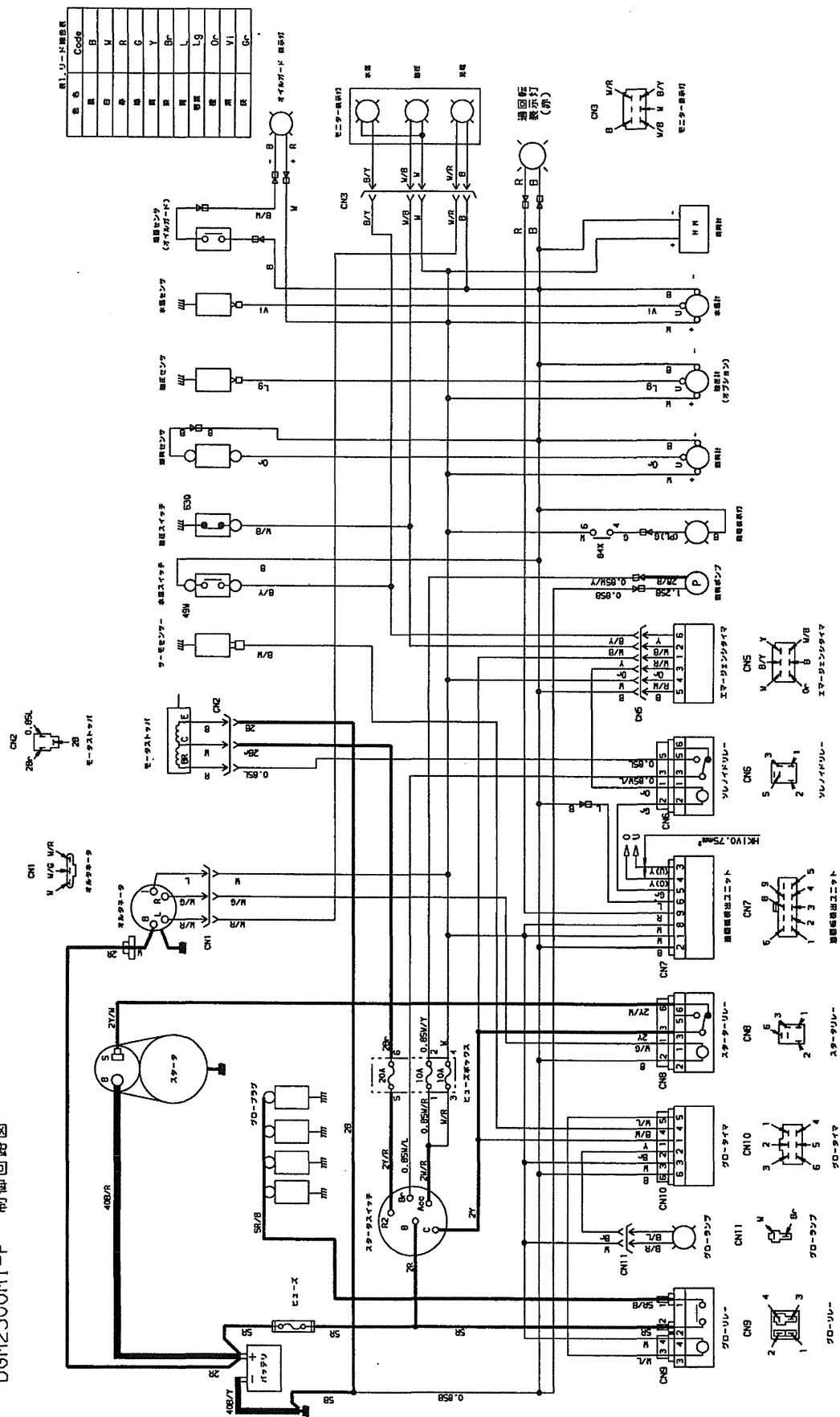
コネクタの端子配列図は、ワイヤハーネス朝コネクタのかん合面より見たものとする。

1. リード線の色と色記号の関係を表1に記す。
2. リード線の色と色記号の関係を表1に記す。
3. リード線スライブ色は、地色/ストライブ色で記す。
4. 指示なきリード線の太さは、 0.75mm^2 とする。
5. カッコ内記号は、線番又はスリブ色を示す。



14. エンジン電気回路図

DGM250UM1-P 制御回路図



- 注記
1. コネクタの端子配列図は、番号付きコネクタ側のかん合面より見るとする。
 2. リード線色と色記号の関係を表1. に記す。
 3. リード線ストライプ色は、地色/ストライプ色で記す。
 4. 指示なきリード線の太さは、0.5mm²とする。

スタータースイッチ接続表			
端子	B	R	C
スターター	○	○	○
停止	○	○	○
予備電源	○	○	○
接地	○	○	○

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社

〒 731-3167 広島市安佐南区大塚西6-2-11 Tel 082-849-2005 (代)

やまびこ北海道株式会社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

やまびこ東北株式会社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

やまびこ東部株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

やまびこ中部株式会社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111 (代)

やまびこ西部株式会社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159 Tel 086-296-5911 (代)

やまびこ九州株式会社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。